

# 青森市競輪事業の収支見通し

平成23年9月  
青森市企画財政部  
競輪場管理課

## 1. 青森競輪の収支見通し試算における前提条件

※ この収支見通しは、第2回「青森競輪あり方検討会」において委員より求められた資料で、現時点の情報を用いて機械的に作成したものであり、青森市の政策意図を反映したものではありません。

### 【収入について】

- ◆本場開催は現状の58日開催で試算。(記念競輪ベースで、特別競輪の開催はなし)
- ◆他の競輪施行者が主催する競輪の場外車券の発売日数は、現状の260日程度で試算。

### 【支出について】

#### ◆JKA交付金について

- ・青森競輪の平成22年度実績ベースで、交付金率約2.9%(還付金約0.8%)、実質負担「2.1%」から「1.5%」への削減を仮定。【平成23年3月8日全国施行者協議会試算に基づく】
- ・JKA交付金還付制度は平成23年度で終了となり、還付相当分及び実質引き下げ相当分は、包括委託契約に係る施行者(青森市)の最低収益保証額には含めない。

(注)現在、国においては法改正を前提に検討中で、具体的な内容は示されていない。

- ◆開催経費のうち、重勝式車券発売委託料は売上連動として試算。(重勝式車券売上の11.0%)
- ◆公営競技納付金について
  - ・地方財政法に基づき、単年度黒字の場合、翌年度に地方公共団体金融機構へ収益の一部を納付する義務が発生する。
- ◆一般会計への繰入金は、「青森市財政プラン2011」と合わせた平成25年度までとする。

# 【参考】今後の売上高の見通し(全国)

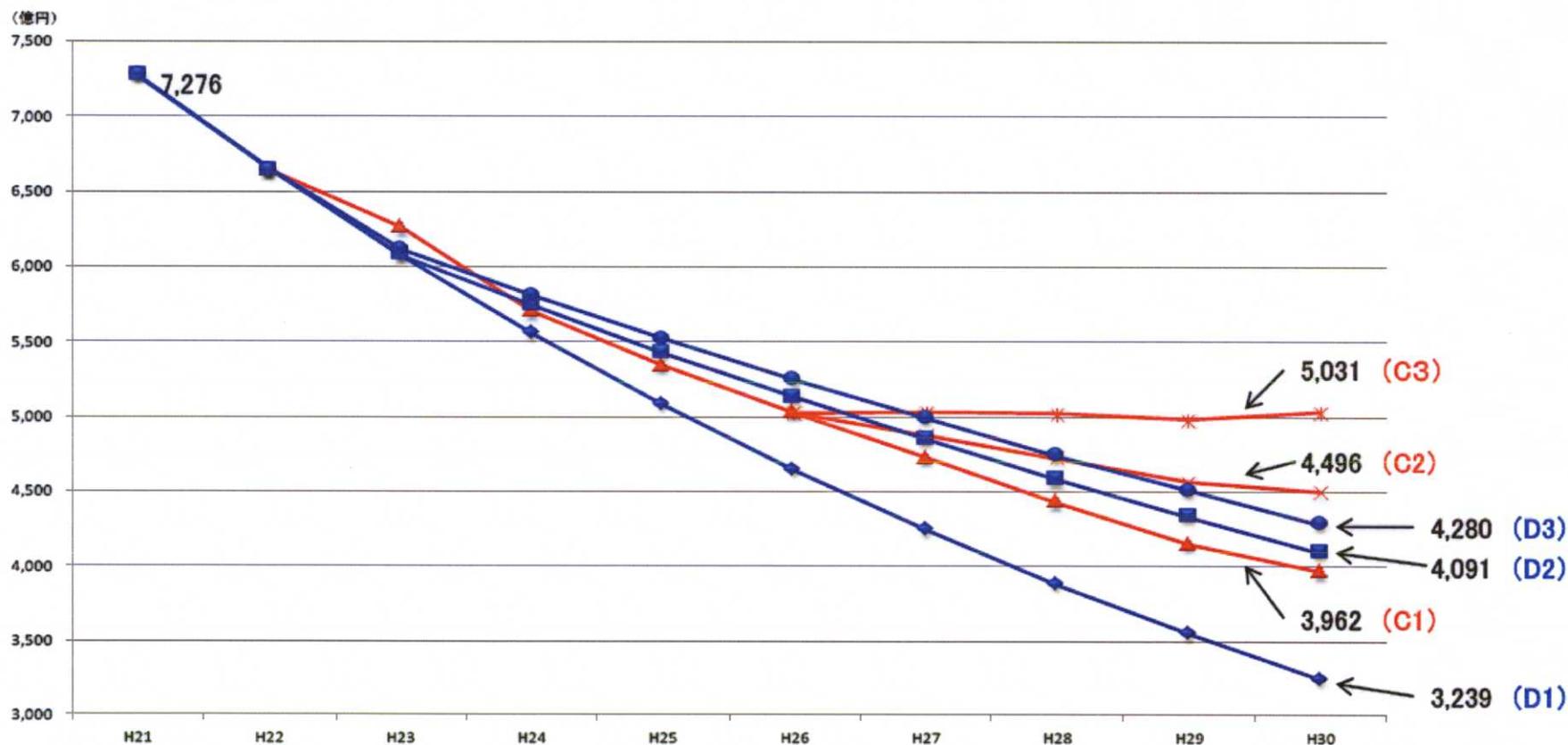
【参考】 経済産業省産業構造審議会車両競技分科会  
「競輪事業のあり方検討小委員会」-第5回資料抜粋

## ◆ 前回小委員会の試算（A及びB）を基に売上高見通しを改訂（3つのシナリオ）（—）

- C1 22年度上期までの売上げを加味したケース
- C2 活性化策の効果により、27年度以降の売上高減少率がC1シナリオの半分程度となるケース
- C3 27年度以降、売上高が下げ止まるケース

## ◆ 全国競輪施行者協議会（全輪協）も独自に売上高見通しを策定（3つのシナリオ）（—）。

- D1 平成23年1月までの売上減少率（約▲9%）が続く想定
- D2 24年度は売上拡大効果（約190億円）を加味し、平成25年度以降約▲6%で推移
- D3 23年度の民間消費支出の増加見通し（+0.6%）を加味

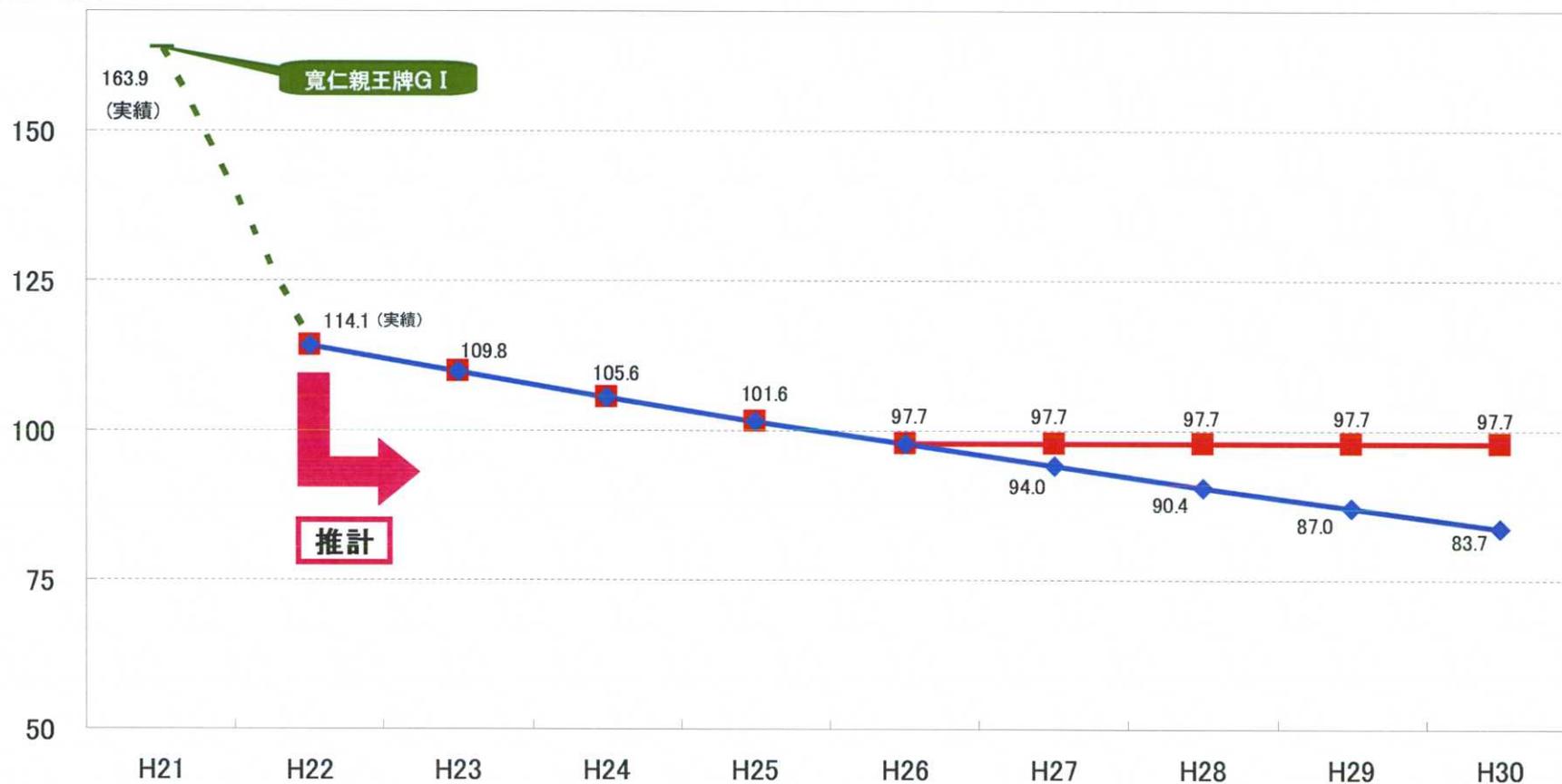


## 2. 今後の売上高の見通し(青森競輪) 【本場開催】

青森競輪の平成22年度売上額を基準とし、次の2つのケースを試算。

- ◆売上予測A 過去5ヵ年(平成18~22年度)の前年比平均増減率(▲3.8%)<sup>※1</sup>で推移し、競輪業界の活性化策の効果などにより、平成27年度以降、売上高が下げ止まるケース
- ◆売上予測B 売上減少率(▲3.8%)が続くケース

(単位: 億円)



※1 平成21年度に本場において特別競輪が開催されたことによる特殊要因のため、当該年度を除いている。

### 3 場外開催に係る車券の受託発売収入予測 【場外開催】

- ◆収益確保の取り組みとして、他の競輪施行者が主催する競輪の車券の受託発売による収入で、本場開催の収支を下支えしている。
- ◆場外車券売上額の約7.5%が受託発売収入となっている。
  - ・受託発売収入内訳……①施設賃借料収入(場外車券売上額の5.25%)、②事務協力費収入(場外車券売上額の約2.3%)(※1)
- ◆受託発売収入予測について
  - 場外車券の売上額は、前年比増減率平均値で平成23年度以降を試算。
  - ・売上ベースで年▲約8.6%で推移。

場外開催に係る車券売上額の推移

(単位:円)

	場外車券売上額 【A】 (※2)	前年比 増減率	受託発売収入 【B】	対売上比 【B】/【A】
平成18年度 実績	10,799,390,100		746,926,185	6.9%
平成19年度 実績	9,906,243,900	-8.3%	760,603,948	7.6%
平成20年度 実績	8,993,124,300	-9.3%	675,754,863	7.5%
平成22年度 実績 (※3)	(7,471,566,800)	-17.0%	(566,201,191)	7.5%
前年比増減率 平均値(4年間)		-8.6%		

※1 レースの種類や発売区分(専売・併売)によって、受託経費率が異なる。

※2 場外開催売上額…本場・藤崎場外・安方前売SCの合計値。

※3 平成22年度実績欄の( )書きは、東日本大震災の影響により、「本場・藤崎場外・安方前売SC」とも、H23.3.12から営業一時休止となった特殊要因のため、予定通り全日程を消化した場合の推計。

(注) 平成21年度に本場において特別競輪が開催されたことによる特殊要因のため、当該年度を除いている。

受託発売収入予測

(単位:円)

	場外車券売上額 【A】	前年比 増減率	受託発売収入 【A】×7.5%
平成23年度 予測	6,829,000,000	-8.6%	512,000,000
平成24年度 予測	6,241,000,000	-8.6%	468,000,000
平成25年度 予測	5,704,000,000	-8.6%	427,000,000
平成26年度 予測	5,213,000,000	-8.6%	390,000,000
平成27年度 予測	4,764,000,000	-8.6%	357,000,000
平成28年度 予測	4,354,000,000	-8.6%	326,000,000
平成29年度 予測	3,979,000,000	-8.6%	298,000,000
平成30年度 予測	3,636,000,000	-8.6%	272,000,000

※百万円未満切捨

百万円

場外車券の受託発売の収入予測



## 4. 青森競輪売上収入予測 **【本場開催】+【場外開催に係る車券の受託発売収入】**

- ◆ 前述の「売上予測A, B」及び「場外開催に係る受託発売収入予測」をベースとし、平成26年度・次期包括委託契約から30年間の売上収入予測を試算。
- ◆ 平成26年度からの次期包括委託に係る最低収益保証額は、現行委託契約期間(平成19～25年度)の中間年である平成22年度売上収入に対する最低収益保証額の占める割合(約1.09%)をもとに、平成26年度以降を試算。

**売上収入予測A……「本場開催▲3.8%」+「場外開催▲8.6%推移」 ※H27年度以降下げ止まるケース※**

(単位:百万円)

	本場開催 車券売上売上 【A】	場外開催に係る車券 の受託発売収入 【B】	売上収入合計額 【C】 【A】+【B】	包括委託に係る 最低収益保証額 【C】×1.09% (四捨五入)
平成22年度 (実績)	11,410	566	11,976	130
平成23年度	10,976	512	11,488	130
平成24年度	10,558	468	11,026	130
平成25年度	10,156	427	10,583	130
平成26年度	9,770	390	10,160	111
平成27年度	9,770	390	10,160	111
平成28年度	9,770	390	10,160	111
平成29年度	9,770	390	10,160	111
平成30年度	9,770	390	10,160	111
平成31年度	9,770	390	10,160	111
平成32年度	9,770	390	10,160	111
平成33年度	9,770	390	10,160	111
平成34年度	9,770	390	10,160	111
平成35年度	9,770	390	10,160	111
平成36年度	9,770	390	10,160	111
平成37年度	9,770	390	10,160	111
平成38年度	9,770	390	10,160	111
平成39年度	9,770	390	10,160	111
平成40年度	9,770	390	10,160	111
平成41年度	9,770	390	10,160	111
平成42年度	9,770	390	10,160	111
平成43年度	9,770	390	10,160	111
平成44年度	9,770	390	10,160	111
平成45年度	9,770	390	10,160	111
平成46年度	9,770	390	10,160	111
平成47年度	9,770	390	10,160	111
平成48年度	9,770	390	10,160	111
平成49年度	9,770	390	10,160	111
平成50年度	9,770	390	10,160	111
平成51年度	9,770	390	10,160	111
平成52年度	9,770	390	10,160	111
平成53年度	9,770	390	10,160	111
平成54年度	9,770	390	10,160	111
平成55年度	9,770	390	10,160	111

現行包括委託  
契約期間

売上収入予測B……「本場開催▲3.8%」+「場外開催▲8.6%推移」

※減少率が続くケース※

(単位:百万円)

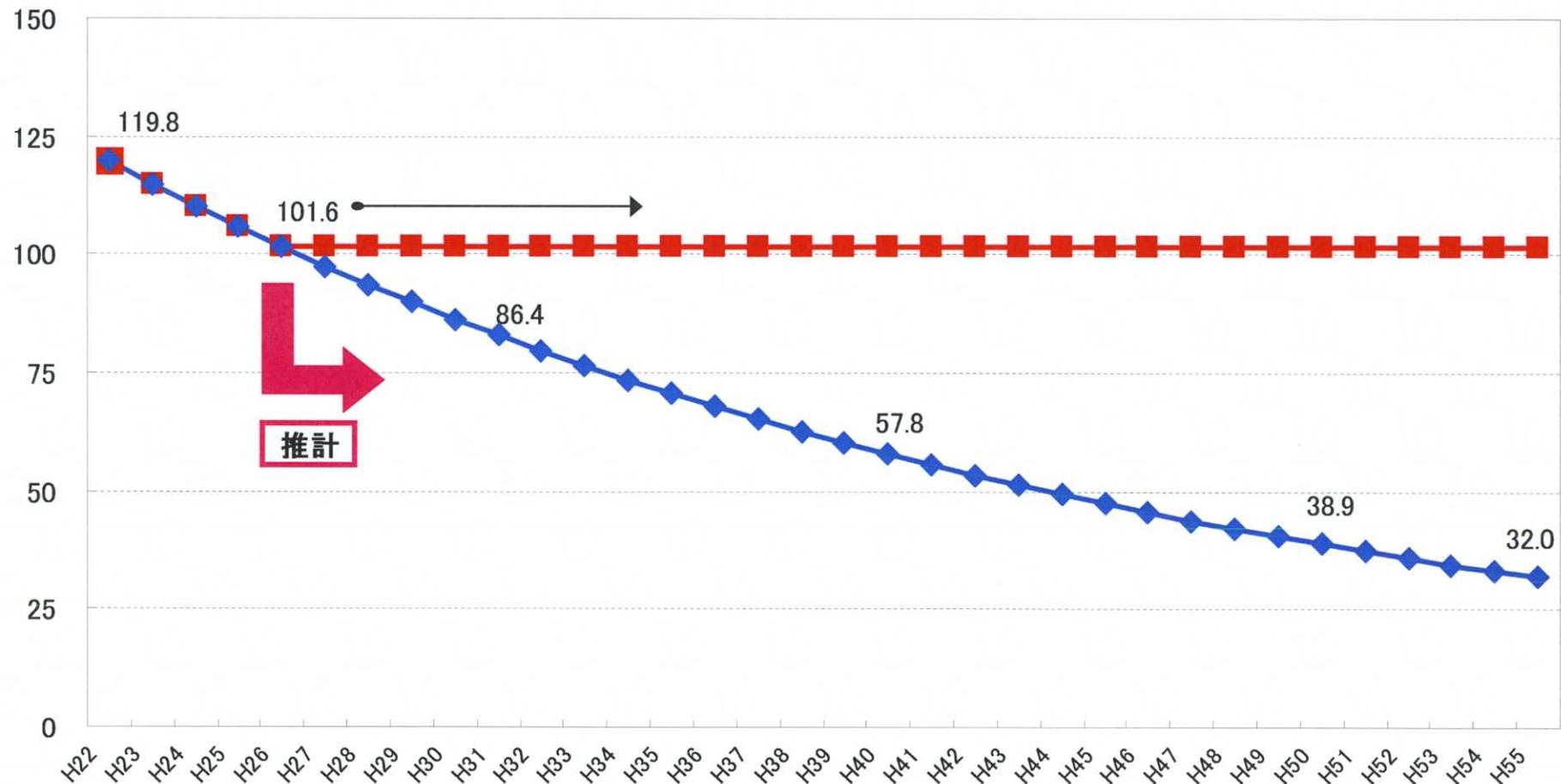
	本場開催 売上収入 【A】	場外開催に係る車券 の受託発売収入 【B】	売上合計額【C】 【A】+【B】	包括委託に係る 最低収益保証額 【C】×1.09% (四捨五入)
平成22年度 (実績)	11,410	566	11,976	130
平成23年度	10,976	512	11,488	130
平成24年度	10,558	468	11,026	130
平成25年度	10,156	427	10,583	130
平成26年度	9,770	390	10,160	111
平成27年度	9,398	357	9,755	106
平成28年度	9,040	326	9,366	102
平成29年度	8,696	298	8,994	98
平成30年度	8,365	272	8,637	94
平成31年度	8,047	249	8,296	90
平成32年度	7,741	227	7,968	87
平成33年度	7,446	208	7,654	83
平成34年度	7,163	190	7,353	80
平成35年度	6,890	173	7,063	77
平成36年度	6,628	158	6,786	74
平成37年度	6,376	145	6,521	71
平成38年度	6,133	132	6,265	68
平成39年度	5,899	121	6,020	66
平成40年度	5,674	110	5,784	63
平成41年度	5,458	101	5,559	61
平成42年度	5,250	92	5,342	58
平成43年度	5,050	84	5,134	56
平成44年度	4,858	77	4,935	54
平成45年度	4,673	70	4,743	52
平成46年度	4,495	64	4,559	50
平成47年度	4,324	58	4,382	48
平成48年度	4,159	53	4,212	46
平成49年度	4,000	49	4,049	44
平成50年度	3,848	44	3,892	42
平成51年度	3,701	40	3,741	41
平成52年度	3,560	37	3,597	39
平成53年度	3,424	34	3,458	38
平成54年度	3,293	31	3,324	36
平成55年度	3,167	28	3,195	35

現行包括委託  
契約期間

◆売上収入予測A・・・「本場開催▲3.8%」+「場外開催▲8.6%推移」 ※H27年度以降下げ止まるケース※

◆売上収入予測B・・・「本場開催(▲3.8%)」+「場外開催▲8.6%推移」が続くケース

(単位:億円)



## 5. 継続パターン／廃止パターンについて

### ◆青森競輪事業継続の場合

◇売上収入予測Aをベースに、3つのパターンを試算。

**売上収入予測A:「本場開催▲3.8%推移」+「場外開催▲8.6%推移」 ※H27年度以降下げ止まるケース※**

#### (パターン1) 現状維持パターン

**【施設現状維持】+【一般会計への繰り入れを行う】**

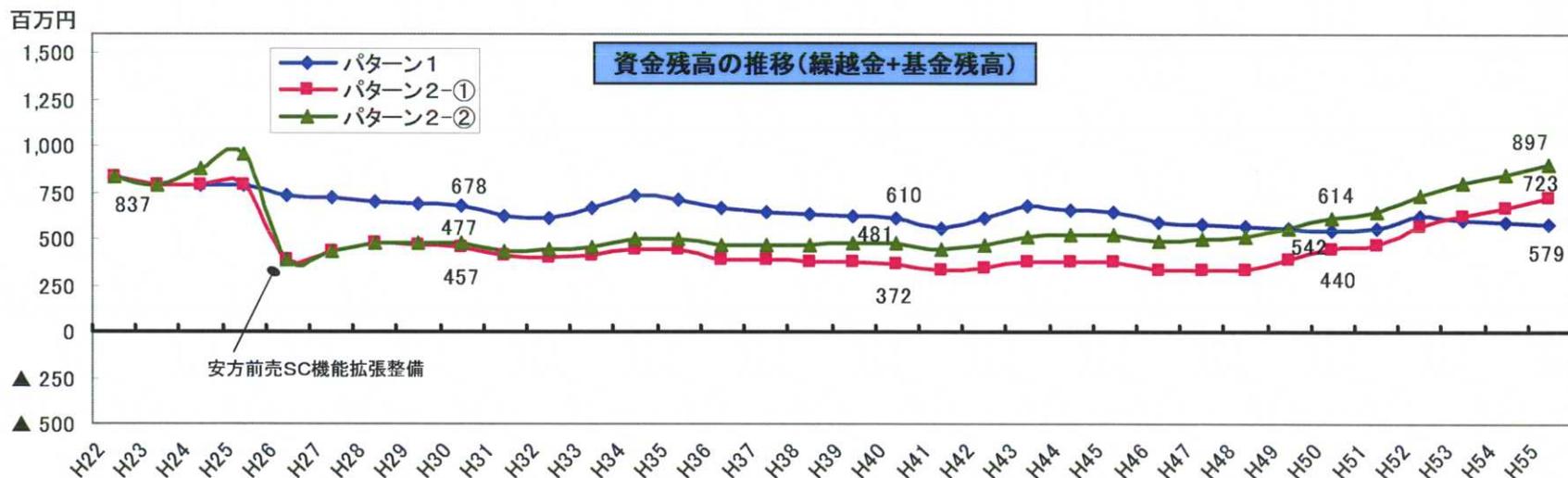
- ・青森本場、藤崎場外車券売場、安方前売サービスセンター(以下「安方前売SC」という。)は現状のままで車券発売をする。
- ・維持修繕を基本とし、新たな施設改善投資は行わない。  
※本場大型映像装置の更新を必要とする。

#### (パターン2) 安方前売SC場外車券売場化パターン

- ・安方前売SCを滞留性のある施設へ機能拡張する。  
※現状(本場+安方前売SC)1,840人/日、収容可能な施設 建設費14.5億円を想定。(用地費除く。)  
※地方債借入……据置3年、償還20年、利率0.9%、元金均等償還
- ・青森本場については、本場開催のみ施設利用し、場外開催のみの車券発売をしない。  
※無料送迎ファンバスの運行、本場敷地内の除雪費用等、一定の経費削減が見込まれる。  
(現在、無料送迎ファンバスは、東部営業所と安方前売SCから送迎している。)  
※本場大型映像装置の更新は実施しない。

**(2-①) 【安方前売SC機能拡張】+【一般会計への繰り入れを行う】 ※平成25年度まで※**

**(2-②) 【安方前売SC機能拡張】+【一般会計への繰り入れを行わない】**



◇売上収入予測Bをベースに、3つのパターンを試算。

**売上収入予測B:「本場開催▲3.8%推移」+「場外開催▲8.6%推移」 ※減少が続くケース※**

**(パターン1) 現状維持パターン**

**【施設現状維持】+【一般会計への繰り入れを行う】**

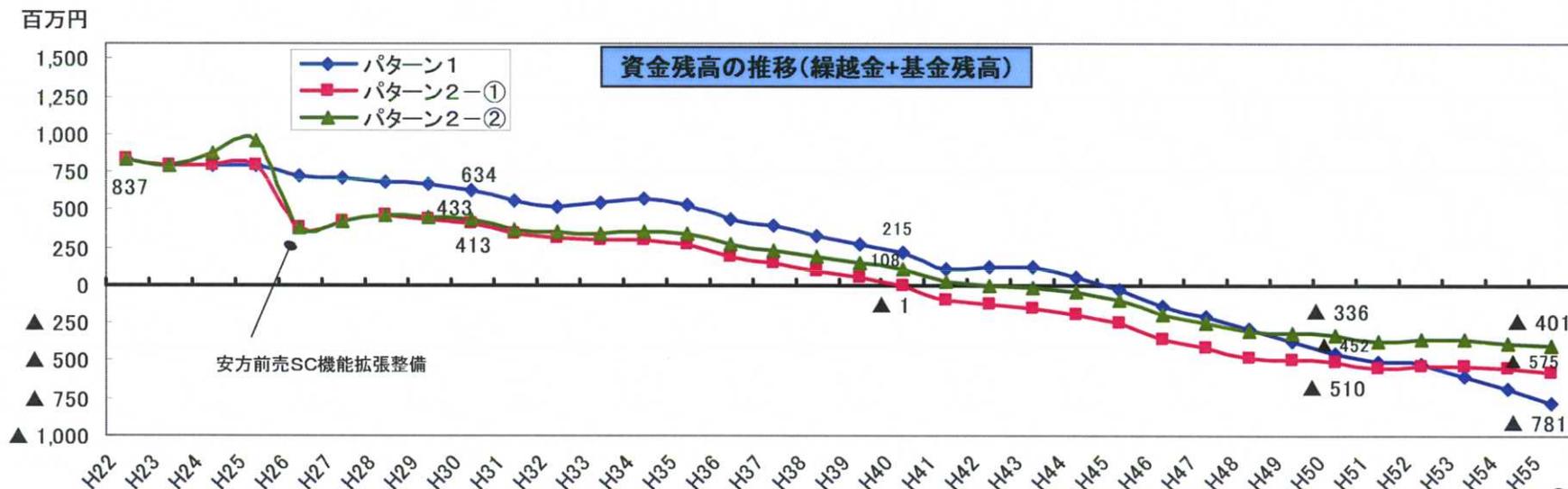
- ・青森本場、藤崎場外車券売場、安方前売SCは現状のままで車券発売をする。
- ・維持修繕を基本とし、新たな施設改善投資は行わない。  
※本場大型映像装置の更新を必要とする。

**(パターン2) 安方前売SC場外車券売場化パターン**

- ・安方前売SCを滞留性のある施設へ機能拡張する。  
※現状(本場+安方前売SC)1,840人/日、收容可能な施設 建設費14.5億円を想定。(用地費除く。)  
※地方債借入……据置3年、償還20年、利率0.9%、元金均等償還
- ・青森本場については、本場開催のみ施設利用し、場外開催のみの車券発売をしない。  
※無料送迎ファンバスの運行、本場敷地内の除雪費用等、一定の経費削減が見込まれる。  
(現在、無料送迎ファンバスは、東部営業所と安方前売SCから送迎している。)  
※本場大型映像装置の更新は実施しない。

**(2-①) 【安方前売SC機能拡張】+【一般会計への繰り入れを行う】**

**(2-②) 【安方前売SC機能拡張】+【一般会計への繰り入れを行わない】**



●「パターン2」の前提1 青森本場の見込まれるコスト削減について

		安方前売SC	
		場外車券売場化とした場合	現状の場合
青森本場	修繕費	計画的にコンパクト化	増加 施設の老朽化に伴い維持修繕が増加。(現状、年間2,000万円)
	大型映像装置	不要	必要 年間、約5,700万円の新たな負担(リース料)が発生。
	無料送迎ファンバスの運行	不要	必要 年間、約2,400万円
	除雪費	縮小	必要 年間、約600万円
 青森本場コスト削減効果⇒年間、約8,700万円			

●「パターン2」の前提2 「安方前売SC」を「場外車券売場化」するとした場合のスケジュール(イメージ)

	整備作業内容
1年目	基本計画策定 <small>・マーケティングリサーチ ・用地、施設概要</small>
2年目	地元住民等への説明会 <small>・基本設計</small>
3年目	実施計画策定 <small>・整備計画</small> 実施計画に基づく整備作業 <small>・工事着工</small>
4年目	 オープン

※地域事情等により実際とは異なる。

## ◆青森競輪事業廃止の場合

### (パターン3) 青森競輪事業廃止パターン

・競輪廃止とした場合は、施設解体費用が発生する。

#### 施設解体費用(概算)

	本場	藤崎場外車券売場	安方前売SC
施設合計面積	129,817㎡	49,950㎡	216㎡
坪換算	39,338坪	15,136坪	65坪
解体費用	約21.64億円	約8.32億円	約0.04億円
合計	約30億円		

坪単価＝約55,000円で試算

※D社ホームページ上で公開されている青森県・解体費用相場を参照

※ これまで、「廃止」とした競輪施行者の中には、競輪選手、日本自転車競技会から損害賠償を求められ訴訟となったケースもある。